

世帯と人口  
 (平成6年11月1日)  
 世帯 39,371 (+29)  
 人口 112,554人 (+40)  
 男 58,195人 女 54,359人

# えびな 広報

編集・発行  
 海老名市役所秘書広報課  
 〒243-04  
 神奈川県海老名市勝瀬175  
 ☎ (0462) 31・2111

この広報は再生紙を使用しています。

# きらめく星の世界



## ウィンターイルミネーション

1/31まで海老名駅前で開催

大みそかは終夜点灯

「何て、幻想的で素敵なんだろう」  
 「まるで、別世界のように！」

冬の風物詩として、市民の方々に親しまれている「えびなウィンターイルミネーション」が、今年も十二月一日から海老名駅東口周辺の樹木に点灯され、道行く人々の目を楽しませています。

この事業は、イルミネーション実行委員会(塩脇委員長、14人で構成)が地域の活性化と市の産業・観光の振興を図るとともに、寒い冬に市民の心に潤いを与えられればと、行ったもので今年で六回目。

イルミネーションの点灯時間は、午後五時から午前零時までで、一月三十一日まで。大みそかから元旦にかけては終夜点灯します。

冬の夜空の星々を背景に浮かび上がる、幻想的な光の世界を楽しんでみてはいかがでしょうか。

※問い合わせ 海老名市観光協会 ☎ 31・2111(内511・512)。

### ★ 駅前が輝く星に大変身 ★

ショッピングや通勤、通学の人々にぎわう昼間の海老名駅前(写真下)が、夜になると突然、無数の輝く「星」で飾られ、光の世界に変身します(写真上)。きっと、みなさんを幻想的な世界に誘ってくれることでしょう。ぜひ、ご覧ください。





平成6年度第3期公民館講座一覧表

Table with columns: 講座, 科目, 内容, 期間, 曜日, 回数, 時間, 会場, 講師, 定員, 持ち物, その他. Lists various courses like 'ペン習字', '絵画', '生活', etc.

Table with columns: 講座, 科目, 内容, 期間, 時間, 会場, 講師, 定員, 持ち物, その他. Lists courses for '市民教養大学' and '青年教室'.

学んでみませんか 公民館講座など13科目

市中央公民館では、平成6年度第3期公民館講座・市民教養大学・青年教室を別表のとおり開催します。



筆ペンで歌舞伎の芝居絵を描き続ける



城島 静也さん... 芝居絵を描き続ける... 筆ペンで歌舞伎の芝居絵を描き続ける...

生きていく充実感に

筆ペン一本で歌舞伎の芝居絵を描き続けるのは、城島静也さん。国分寺市下目62歳。城島さんは、歌舞伎座の三階席から芝居を見ながら、ひさしのスケッチブックをのせ、気に入った場面を一つ二つでスケッチと描いて...



公民館だより

この「公民館だより」は、公民館の活動や講座の情報を伝えるための広報誌です。

一工芸教室 光と影のハーモニー 「シャドーボックス」

今回の「工芸教室」では、「シャドーボックス」の制作を行います。シャドーボックスとは、同じ絵を切り取り、奥から順に貼って重ねて立体感を出す大変おもしろいインテリアアクセントです。

平成6年度文化講演会 北野 大氏を迎えて 「やりたかった二番目のことを大切に！」



工学博士の北野大氏を迎えて、「やりたかった二番目のことを大切に！」と題し、文化講演会を開催します。入場料は無料です。

24回 市駅伝競走大会

スタート・運動公園・ゴール '95年1月8日・5区間 20km



新春を走る！(去年の駅伝)

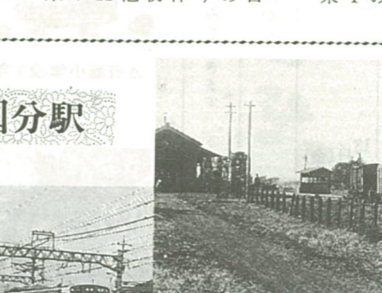
参加チーム募集

平成7年1月8日(日)に第24回海老名市駅伝競走大会が開催されます。コースは、海老名運動公園陸上競技場スタート、ゴールとする5区間20kmです。

午前8時、9時スタート。会場は海老名南側広場及び東側道路。一般男子、少年男子、女子、小学生、中学生、高校生、社会人、企業、個人、団体、任意参加可。

学校体育施設日程調整会 7年・3月分 学校体育館全日分 学校体育館全日分

相模国分駅 写真が語る郷土の歴史 混合列車が行く



この写真は、昭和十四年ごろの相模国分駅(現相模鉄道)の相模国分駅を撮影したものです。当時の相模鉄道は、サツマイモや砂利などを運ぶ貨物列車が主で、貨車数両に客車が二両という混合列車を重連のSLがけん引していました。

このコーナーでは、市内に残る古い写真を紹介いたします。風景や風俗、人物などを撮った古い写真をお持ちの方は市史編さん室(内291)へご連絡を。

# 和やかに鑑賞

## いっばいの自信作を

「ゆとりの中にきらめきを」をテーマに、十月二十九日から十一月六日まで行われた市民文化祭が、多くの市民の参加、来場により盛況のうちに終了いたしました。

今年の文化祭は文化会館と中央公民館が使用できなかったため、総合福祉会館をメイン会場とした展示部門だけの開催となりました。展示部門だけとはいえず、出展数は例年並み、二週に分けての開催。前半は文化団体連合会と美術協会の作品、後半が高齢者と子供の作品が中心となりました。展示作品の関係から

盆栽、生花、絵画、写真等々、日頃各分野での趣味または勉強の成果を発表するまたとないチャンスが文化祭でもある。また、今風にアレンジされた俳句、俳画、短歌などは、見るものにおもしろく、伝わってくるものもあり、しばらく足を止めて見入った。



盆裁、生花、絵画、写真等に思う。老若男女を問わず、家族そろって和やかに見たり、聞いたり様子はまさに国際祭にふさわしく、「ゆとりの中に、きらめき」との有意義な文化祭であった。長い開催期間に実行委員等関係者大変なご苦労が伺える。

さらに外国人も増えてきている市としては、この辺りでどうあるのが良いのか、または、こう思うなどの意見交換会若しくは討論会などを行い、市民の声を吸い上げて、今までのない分野を見いだしていくことを提案したい。

(板倉栄子)



# 海老名直忠翁

第339話

## えびなの人びと(二)

### 石川直忠翁

近世における石川家の中興の祖は、元尾州藩士石川太郎兵衛といひ、江戸四ツ谷左門町に住んでいたが、思うところあって江戸初期河原口村三番地に移り、延宝九年(一六八一年)五月三日に他界した人である。遺品に忍び用のしころ頭巾(注)、紙入などがある。



先祖の諸霊の戒名を刻んだ大墓塔

直忠翁は、文政八年(一八二五年)十月十七日に生誕、太郎兵衛より数えて十代目の当主となった。翁が青年期に差し掛かると、父と兄を相次いで失い家運が傾く羽目になった。よって翁は、意を決し二十五歳の時、中新田村の今福武兵衛家に十年間の年季奉公に出た。年季が明けても主家の大事には、いっどもは参ずるといふ律義があった。

察もした。明治十一年、バルコニー付らせん階段の二階建て画期的なモダン校舎が安養院北側に建設されたのも翁の陰の力が興って多かつたようである。

また、同校の教師に東京の親類筋に当たる河井某を招へ、西南の役に参加し片腕を失った傷兵軍人であった。これについては、一つのエピソードがある。大正十二年、現戸主の安一氏が小学校五年生の時字ばれた、尋常小国語読本巻九第二十二北風号という文の冒頭に「北風はたけが五尺二寸もある軍馬で毛はうるからに強うな軍馬である。北風の主人は若い騎兵中尉でたいそう北風をかはいがつて

まるで我が子のやうに大事にしていた。或年戦争が始つたので北風も外の軍馬と同じやうに主人にしがたつて戦地へ向つた」とある。この若き中尉こそが河井先生をモデルにしたものだったのである。

文の後段には、――始終先頭に立つて砲弾の破片で負傷した中尉が北風は、味方に追われて数十間も進むが中尉のもとにかけ戻り、味方の勝利の万歳の声を聞いて一声高くいななき最愛の主人に知らせた。これを聞いた中尉も満足らしい笑みを浮かべるとい

家運復興に当たつての翁の信条は「入るをがめつ」といふ儉約主義であった。また、始末には働きのとの評判の高し、河井某を近所の飯島家から迎えた。そうして精励すること約二十年後の明治三十年には、土蔵普請をするまでになった。翌三十一年の「小作米受領本帳」によると、年貢米百五十俵を受取る地主になってきた。このことについては、同家の系図帳には「倉庫下家(通)を作り有福となる……千辛万苦して父の意志を貫く……」とあり翁の努力を語っている。後にこの土蔵は、海老名学校へ御真影が下賜になった際、校内に奉安所がなかつたので一時仮奉安所に充てら

まるで我が子のやうに大事にしていた。或年戦争が始つたので北風も外の軍馬と同じやうに主人にしがたつて戦地へ向つた」とある。この若き中尉こそが河井先生をモデルにしたものだったのである。

文の後段には、――始終先頭に立つて砲弾の破片で負傷した中尉が北風は、味方に追われて数十間も進むが中尉のもとにかけ戻り、味方の勝利の万歳の声を聞いて一声高くいななき最愛の主人に知らせた。これを聞いた中尉も満足らしい笑みを浮かべるとい

**海老名むかしむかし**

電話で海老名の昔ばなしが聞けます。

11月29日～12月19日 第15話 富士山の七不思議 九折のイチョウ

12月20日～1月10日 第16話 富士山の七不思議 いはりの地蔵様

333・3838

池田 武治